松江滞在記

随　筆

藤　原　　融*

Glimpses of Matsue

Key Words: Shimane University, Faculty of Materials for Energy, Matsue, Yakumo

はじめに

随筆を書きなさい、島根大学に設置された新学部に関わっていることや松江を舞台としたドラマ『ばけばけ』のことなどネタはあるだろうと言うメールを受け取り、お引き受けしたものの、案の定、締め切り間際になり、バタバタと書いている。

筆者は1977年に基礎工学部に入学して以来、2023年3月まで大阪大学でお世話になった。基礎工学部情報工学科（現情報科学科）の教員、そして、大学院情報科学研究科の設置に伴う異動で、ずっと情報系で過ごしてきた。学部4年の時に、「暗号」という卒業研究テーマに惹かれて、嵩忠雄先生の研究室に配属された。修士で就職するつもりだったので、企業ではできないであろう理論のテーマを選んだ。修士１年のときに某企業にインターンに行ったとき、インターン先の人に進路を聞かれて、就職と答えたら、なぜ就職するの？博士に進学した方がよいと言われた。その一言で決めた訳ではないが、博士後期課程に進学して、研究者の道を生きてきた。この間、情報セキュリティや誤り訂正符号の理論研究をしてきた。

定年を本格的に意識し始めた頃、島根大学材料エネルギー学部のお話をいただいた。島根には２回ほど来た記憶があるだけで、縁もゆかりも感じていなかったが、中学生の頃に読んだ小泉八雲ゆかりの地であること、青春１８きっぷで訪れた木次線（当時はまだ国鉄）も学生時代の良い思い出であったこと、情報系以外の学部というのも面白いかなと思ったことから、定年１年前の2023年春に島根大学に移った。島根大学で１年間は教授、その後は特任教授という身分で過ごしている。

島根大学材料エネルギー学部のこと

島根大学は、旧制松江高等学校、島根師範学校、島根青年師範学校を母体として1949年に新制大学となり、文理学部、教育学部が置かれた。1965年に島根県立島根農科大学を国立移管し、農学部を設置している。1978年に文理学部が法文学部と理学部に分離し、その後1995年に理学部と農学部を融合・改組し、総合理工学部と生物資源学部となった。2003年国立島根医科大学と合併して島根大学に医学部が設置された。

材料エネルギー学部は2023年４月に設置された。一学部一学科で、学科は材料エネルギー学科である。学部の英語名称は、Faculty of Materials for Energy、つまり、エネルギー問題を解決するために材料を研究する学部であり、島根大学初の工学部である。総合理工学部は、理学部を母体としているので理学系と位置づけられている。

なぜ、材料系の学部であるかは、島根県の歴史と関係している。島根県では、たたら製鉄が行われていた。にわか勉強であるが、砂鉄と木炭を燃焼させて鉄をつくりだす日本古来の製鉄法とのことで、たたらとは鞴（ふいご）のことである。日本刀はこの製鉄法で作られている。砂鉄も木炭も豊富であったことから、江戸後期から明治はじめは、日本国内のほとんどが中国地方で作られていたようだ。そのような歴史的背景が、材料工学が選ばれた理由の一つである。もちろん、島根県の産業構造（下請け型企業が多く、製品開発力が不足）も大きく影響している。

* Toru FUJIWARA
1958 年 6 月生まれ
大阪大学 大学院基礎工学研究科 物理系専攻情報工学分野博士後期課程（1986 年）
現在、島根大学材料エネルギー学部 特任教授　工学博士
大阪大学名誉教授，招へい教授
E-mail: fujiwara@mat.shimane-u.ac.jp

学部定員は、80名で内40名が純増。近年ではほとんどない大きな純増であるが、文部科学省の「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増」に取り組み構想名『材料エネルギー学部による産業変革先導拠点の創出　～“マテリアル・イノベーション”人材養成を起爆剤とした大学改革・エネルギー変革・島根創生の実現～』が採択され、40名の純増となった。材料科学と情報科学の教育を行い、エネルギー課題を材料科学分野から理解し、解決できる工学系の高度専門人材の育成を目指している。

入学試験は、以下の４種類である。前期日程40名、後期日程８名、学校推薦（女子枠）６名、総合選抜26名。総合選抜は共通テスト前の11月に実施され、読解力・表現力試験と面接で評価する。この総合選抜は、ヘルン先生にちなんで、へるん入試と呼ばれる。ヘルン先生とは、パトリック　ラフカディオ　ハーン (Patrick Lafcadio Hearn) のことで、松江の学校教師の辞令にヘルンと記載されていたとのことである。

材料エネルギー学部の教員は現在28名で、そのうち情報と数学系あわせて６名で、大阪大学からは私、一年遅れて、同じく情報科学研究科から長谷川亨先生に赴任いただいた。専門科目は、プログラミングとデータ構造とアルゴリズムを必修として、４科目の選択科目を置いている。

情報教育をするためだけの筈であったが、赴任１か月ほど前に副学部長をするように言われて、担当授業が少ない最初の２年間が急に忙しくなってしまった。この学部では、いわゆる雑用を減らすということで、戦略企画会議（学部長、副学部長２名、学部長補佐２名、事務方）を月２回開いて、ほとんどのことを決め、教務委員会や入試委員会などの学部内委員会を置いていない。全学の各種委員会は多くの大学と同じように存在し、そこには、学部長、副学部長が出席している。こういうことができるのは、一学部一学科であることが大きいと思われる。

松江市とばけばけのこと

ラフカディオ　ハーン（小泉八雲）といえば、松江を思い浮かべる人が多い。八雲が英語教師をしていたのは、島根大学の前身の一つである島根県尋常師範学校と島根県尋常中学校（現・島根県立松江北高等学校）である。ドラマ『ばけばけ』もその大部分が松江を舞台としていた。ドラマでも描かれていたが、実際に八雲が松江に居たのは１年３ヶ月ほどで、日本滞在14年の１割に満たない。このため、松江は、ハーンと妻セツが出会った街と位置付けられている。短期間ではあるが、著書の怪談（Kwaidan）などでは、松江や山陰地方で伝わる話が多かったことが影響しているのではないかと思われる。

写真1　月照寺の大亀

ドラマでも出てきた大亀（写真１）は、月照寺にある。ここは、江戸時代に松江藩を治めた松平家の菩提寺であり、紫陽花寺として有名であるが、紫陽花の季節でないときは空いていて、お座敷でお茶をいただいて、庭を眺めるのも良い。大相撲で有名な雷電も松江藩と関係があった時期があり、その手形が月照寺に残っている。

番組中に松江の大橋がよく出てきた。日本百名橋にも選ばれた橋である。大橋が架かる川には、宍道湖側から中海のほうに、宍道湖大橋、大橋、新大橋、くにびき大橋と続いている。この川の名前が大橋川であるが、大橋が先にあって、大橋が架かる川ということで大橋川になったとのことである[1]。一応、宍道湖側が上流、中海側が下流という位置づけになっているが、水位差はほとんどなく、流れているのかよくわからない川である。

松江での生活のこと

島根のお雑煮は、あごだし（飛魚の出汁）に餅、か

写真２　特急やくもの新型車両@松江駅

もじ（髢、髪文字）海苔を入れるシンプルなものである。餅は奥出雲の餅で、かもじ海苔は採れる地名を冠して、十六島海苔（うっぷるいのり）と呼ばれる海苔で、日本最古の岩海苔と言われている。十六島は出雲にある。なお、かもじ海苔は収穫量が少ないので県外にはほとんど出回ってないようであるが、通販では購入可能である。

島根の神社といえば、出雲市にある出雲大社が有名だが、松江市にもたくさんの神社がある。特に著名なのが、意宇（おう）六社と呼ばれる六つの神社である。意宇は古代出雲国の中心地であった場所で、六社は熊野大社、八重垣神社、神魂（かもす）神社、六所神社、眞名井神社、揖夜（いや）神社で本殿はいずれも大社造りである。

出雲大社は大国大神を祀っており、素戔嗚尊（すさのうのみこと）を祀っているのが、熊野神社である。

大社造りの現存する日本最古の本殿は、神魂（かもす）神社にあり、国宝となっています。桃山時代（1583年）の建立ですが、室町時代の1346年に建てられた本殿の柱が使われています。八重垣神社には鏡の池という池があり、占いの紙にお金を載せて池に浮かべて縁を占う。ばけばけにも登場し、おトキさんが占っていた。

意宇六社とは別に、佐香神社という酒造り発祥の神社もある。お酒といえば、島根にはおいしい地酒が沢山ある。何社くらいあるのか調べてみると、文献[2]に島根県に28社リストアップされていた。クラフトビールは９社。文献[2]は、同僚教授で元日本政策投資銀行の人から島根の産業を理解する資料としていただいた。したがって、酒蔵を調べるのは不謹慎な使い方かもしれないが、皆様にも島根県のお酒を知っていただくのは意味があるということにしておく。一番インパクトがあったのは死神というお酒で、個性的な味であった。同じ蔵に裏死神という銘柄もあるが、こちらはごく普通である。

大阪から松江へは、鉄道であれば、新幹線に乗り岡山で下車し伯備線の特急やくもに乗り換えるのが早い。やくもは、2024年春に273系の新型車両が投入され、快適となった（写真２）。大阪・岡山間普通列車とか、智頭急行経由の鳥取・倉吉行きとか、梅田から高速バスとか、いろんなルートを楽しんでいる。

自分で車を運転して往復することもあるが、その場合、最近は鳥取県の温泉に寄ってのんびり帰ることが多い。特に鳥取の吉岡温泉は山陰道から近く好都合である。鳥取の温泉といえば、三朝温泉が有名であり、高速道路から大きく外れるが、よいお湯である。温泉地をいろいろ訪れるのも楽しみの一つである。普段の週末は熊野大社横の日帰り温泉に通っている。

島根県のこと

島根県は、平成の大合併以降、日本海に面している地域には鳥取側から安来市、松江市、出雲市、太田市、江津市、浜田市、益田市と７市が続き、松江と出雲市の南に、雲南市がある。昔、アンノン族の時代に、有名な旅先のひとつが萩・津和野であり、津和野は島根県にある。一方、萩は山口県にある。松江に来てから知ったが、津和野は安野光雅が生ま

写真３　奥出雲おろち号@出雲坂根駅

れ育った地で、駅前に安野光雅美術館がある。安野光雅の作品は以前から好きだったので、訪ねたが松江から山口の手前の津和野までは遠かった。

冒頭に書いた木次線は、松江市の宍道と広島県庄原市の備後落合を結ぶローカル線である。山を越えるための３段スイッチバックで有名であるが、沿線の過疎化が進み廃線の危機が迫る。観光列車の奥出雲おろち号（写真３）があったが、老朽化で2023年秋に引退した。何とか持ちこたえてほしいものである。昨年11月に放送されたNHK BSの呑み鉄本線日本旅で六角精児さんが芸備線から備後落合で木次線に乗り継いでいた。そんな企画が進んでいるとは知る由もない10月のとある朝、私が通勤で乗っているバスに、その番組の２日目のロケで酒蔵に向かう六角精児さんが乗ってきたのは驚きであった。

おわりに

とりとめのない内容となったが、山陰地方は意外と知られていないと思うので、この機会に紹介させていただいた。温泉、地酒など、ぜひ巡っていただければ幸いである。

参考文献

[1] 松江市役所の市史編纂コラム第79回、『松江市史』から読み解く「大橋川」と「大橋」の名称由来 https://www.city.matsue.lg.jp/material/files/group/33/column79_1.pdf

[2] 日本政策投資銀行、中国地方ハンドブック 2025年版